

## 中国の重慶長安汽車、日系部品調達を本格化-持続的発展へ品質向上 に本腰

2015 年 7 月 16 日日刊工業新聞

展示会を開催する重慶長安汽車の工程研究総院(重慶長安汽車提供)



中国完成車大手の重慶長安汽車が、日系自動車部品・素材メーカーからの調達拡大へ本腰を入れ始めた。中国ビジネスのコンサルティングを手がけるSLG&パートナーズ(神奈川県大磯町)が主催する部品展示会に、社内の設計・開発の施設の一部を提供するなどで協力。同展示会にエンジニアを派遣し、調達先を探す。日欧完成車メーカーが中国内で割安な車の販売を拡大する中、日系部品の採用などで技術力を向上させたい考え。SLG&パートナーズは、2016年6月6—7日に重慶市内の重慶長安汽車の設計・開発などを行うキャンパス(工程研究総院)で展示会「ニッポン自動車部品産業at重慶長安汽車プロジェクト2016」を開く。同総院では約2000人のエンジニアが働く。展示企業の製品や技術は幹部クラスの社員が事前に共有し、全ブースを巡回するほか、技術者と交流して相互のニーズを確認できる。電気自動車(EV)の最先端部品から3次下請け部品メーカーまで幅広く募集する。必要があれば重慶長安の1次サプライヤーを紹介する。ブース数は50—70で、今後追加

を予定する。合計5—6回の開催を予定する。こうした展示会は重慶長安にとっても初めて。「工程研究総院から全部門をあげての協力が約束されている」(SLG&パートナーズの庄司直久社長)という。中国市場の成長が鈍化する中、「長安汽車には『持続的に発展するには高い品質の部品が必要』という危機感がある」(庄司社長)。庄司社長は12年に長安汽車を傘下に持つ中国南方工業集団による日系部品の合併会社設立の計画にも参画。同計画は日中関係の悪化により終了したが、重慶長安の社員らとの交流は続けていた。日系部品メーカーにとっては販売拡大に加え、資材調達や現地コストに対応した生産ライン設計などの利点も期待できる。